

5 地域重点政策ユニット

地域重点政策ユニットは、主な施策の展開方向に基づいて、重点的に取り組むプロジェクトです。

地域重点政策ユニットのプロジェクト名称	推進エリア
1 日本遺産「炭鉄港」を活用した交流人口拡大プロジェクト	空知地域 後志地域 胆振地域
2 アイヌ文化等の地域資源を活かした日胆地域活性化プロジェクト	胆振地域 日高地域
3 道内ジオパーク※の連携による地域力向上プロジェクト	胆振地域 空知地域 日高地域 上川地域 オホーツク地域 十勝地域
4 未来技術の導入などによる産業振興・担い手確保プロジェクト	空知地域
5 地域の歴史や資源を活かした空知の魅力発信プロジェクト	空知地域
6 空知と多様な形で関わりを持つ人材創出プロジェクト	空知地域
7 石狩の若者の地元定着促進と道外からの人の呼び込みプロジェクト	石狩地域
8 石狩観光スタイルと石狩の食の魅力ブランド化推進プロジェクト	石狩地域
9 安心して子どもを生み育てられる“いしかり”環境づくり促進プロジェクト	石狩地域
10 自然環境と調和した誰もが安心して暮らせる“いしかり”まちづくりプロジェクト	石狩地域
11 農林水産業の持続的発展・ブランド化推進プロジェクト	後志地域
12 国際観光リゾートエリアとして持続可能な観光地づくりと広域観光展開プロジェクト	後志地域
13 ShiriBeshi 多文化共生の「まち・ひと・しごと」づくりプロジェクト	後志地域
14 脱炭素社会を創造する「いぶり」産業展開プロジェクト	胆振地域
15 住みたい・訪れたい「いぶり」地域づくりプロジェクト	胆振地域
16 「ひだか」製品のブランド力向上と消費拡大プロジェクト	日高地域
17 「ひだか」の産業を支える人材確保・育成プロジェクト	日高地域
18 「ひだか」の魅力発信と観光の振興プロジェクト	日高地域

日本遺産「炭鉄港」を活用した交流人口拡大プロジェクト

【推進エリア】道央広域連携地域（空知地域、後志地域、胆振地域）

【主な実施主体】国、道、市町、民間、NPO

目的

空知の「石炭」、室蘭の「鉄鋼」、小樽の「港湾」、そしてこれらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた北海道近代化のストーリーである「炭鉄港」が、2019（令和元）年5月に日本遺産へ認定され、その活用を通じた地域活性化に期待が寄せられています。

こうした中、日本遺産を構成する各文化財等を道内外の産業遺産や鉄道遺産ファンなどへPRするとともに、次世代を担う子どもたちに向けた事業を展開するなど、地域特有の資産を生かした取組を推進し、交流人口の拡大を図ります。

施策展開

- 【施策】 ■ 次代に「繋ぐ」炭鉄港
■ 地域で「稼ぐ」炭鉄港

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI※）〉

○炭鉄港推進協議会構成市町への観光入込客数 ※今後、最新の数値を用いて設定

＜施策ごとの主な取組方向＞

- 次代に「繋ぐ」炭鉄港
 - ガイド人材の育成とネットワークの構築
 - 次世代への伝承
 - 遺産の保全に関する取組の促進
- 地域で「稼ぐ」炭鉄港
 - 広域周遊の促進
 - 関連商品の開発・造成
 - 受入環境の整備

道、市町、炭鉄港推進協議会（NPO、経済団体等）、民間事業者等

■ 次代に「繋ぐ」炭鉄港

- ガイド人材の育成とネットワークの構築
- 次世代への伝承
- 遺産の保全に関する取組の促進

■ 地域で「稼ぐ」炭鉄港

- 広域周遊の促進
- 関連商品の開発・造成
- 受入環境の整備

伝承する人材の創出

魅力・満足度の高い環境

地域遺産への愛着醸成

道内外からの誘客

将来に向けて持続可能な活動を実現し、
交流人口を創出する。

関連する主な基盤整備

- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
 - ・観光拠点へのアクセス道路の整備推進
 - ・統一的なイメージ形成に資する案内標識などの情報基盤の整備推進

アイヌ文化等の地域資源を活かした日胆地域活性化プロジェクト

【推進エリア】道央広域連携地域（胆振地域、日高地域）

【主な実施主体】国、道、市町村、民間、NPO

目的

ウポポイ（民族共生象徴空間）の開設により、国内外からの観光客の増加が見込まれることから、胆振・日高地域が連携し、ウポポイの開設効果を最大限に活かしていく必要があります。

このため、アイヌ文化を核とした胆振・日高地域の魅力ある地域資源を一体的に発信し、相互に観光誘客を図る広域観光の促進により、関係人口の創出・拡大を図ります。

施策展開

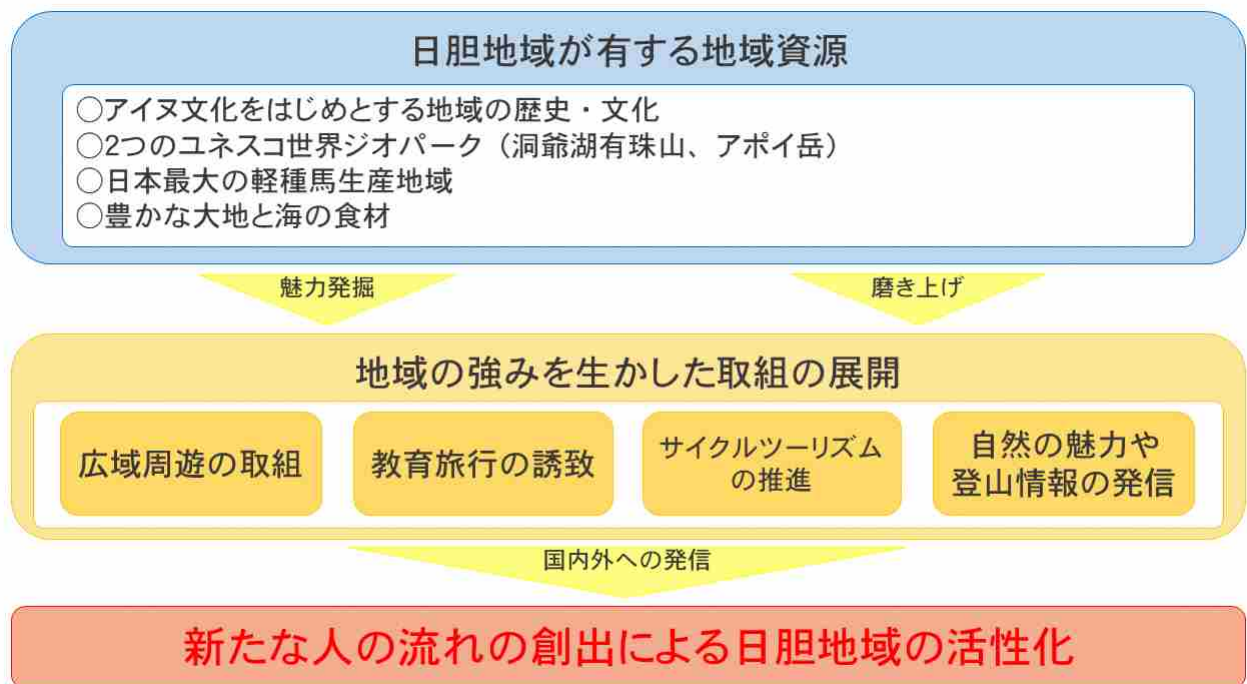
- 【施策】 ■ 胆振・日高地域が有する地域資源の魅力の発掘・磨き上げ
■ 地域の強みの国内外発信等による新たな人の流れの創出

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI※）〉

- 胆振・日高地域への観光入込客数 （※R2年度の最新数値を参考に今後設定）

＜施策ごとの主な取組方向＞

- 胆振・日高地域が有する地域資源の魅力の発掘・磨き上げ
 - アイヌ文化などの地域の歴史・文化の理解・体験機会の創出
 - 2つのユネスコ世界ジオパーク（洞爺湖有珠山、アポイ岳）のさらなる魅力の向上
 - 日本最大の軽種馬生産地域としての魅力の向上
 - モニターツアーの実施などによる新たな地域資源の発掘
 - 豊かな大地と海の食材など地域産品を活用した食のブランド力向上
- 地域の強みの国内外発信等による新たな人の流れの創出
 - ウポポイ開設を契機とする誘客及び広域周遊の促進
 - アイヌ文化やジオパークなどの地域の歴史・文化をテーマとした教育旅行の誘致
 - 海岸線や湖畔、牧場地帯などの豊かな風景を楽しむサイクルツーリズムの促進
 - 支笏洞爺国立公園・日高山脈襟裳国定公園の魅力や登山情報の発信



関連する主な基盤整備

- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
 - ・観光拠点へのアクセス道路の整備

道内ジオパークの連携による地域力向上プロジェクト

【推進エリア】道央広域連携地域（胆振地域、空知地域、日高地域）

【連携地域を越えて取組を推進するエリア】上川地域、オホーツク地域、十勝地域

【主な実施主体】道、市町村、民間、NPO

目 的

道内には、国内最多の5つの日本ジオパーク（洞爺湖有珠山、アポイ岳、白滝、三笠、とかち鹿追）があり、このうち洞爺湖有珠山とアポイ岳がユネスコ世界ジオパークに認定されているほか、十勝岳地域、上川中部地域が、日本ジオパークの認定を目指して活動しています。

ジオパークは重要な地域資源として、その保護に取り組むことだけではなく、歴史や地質など各地域の特色を活かした、ツーリズムなど観光振興や地域振興に繋がることが期待されるとともに、環境教育のほか、火山災害などの防災教育における教材として活用されることが求められています。

このため、各地域の連携を強め、魅力や学術的価値の積極的な発信を行うことや環境教育や防災教育の充実を図る等、道内ジオパーク間のネットワークの発展に向けた取組の推進に努めます。

施 策 展 開

- 【施策】
- 各地域におけるジオパークを活かした特色ある取組の促進
 - 道内ジオパーク間のネットワークの構築
 - 道内ジオパークの連携による地域の魅力発信・関係人口の創出・拡大

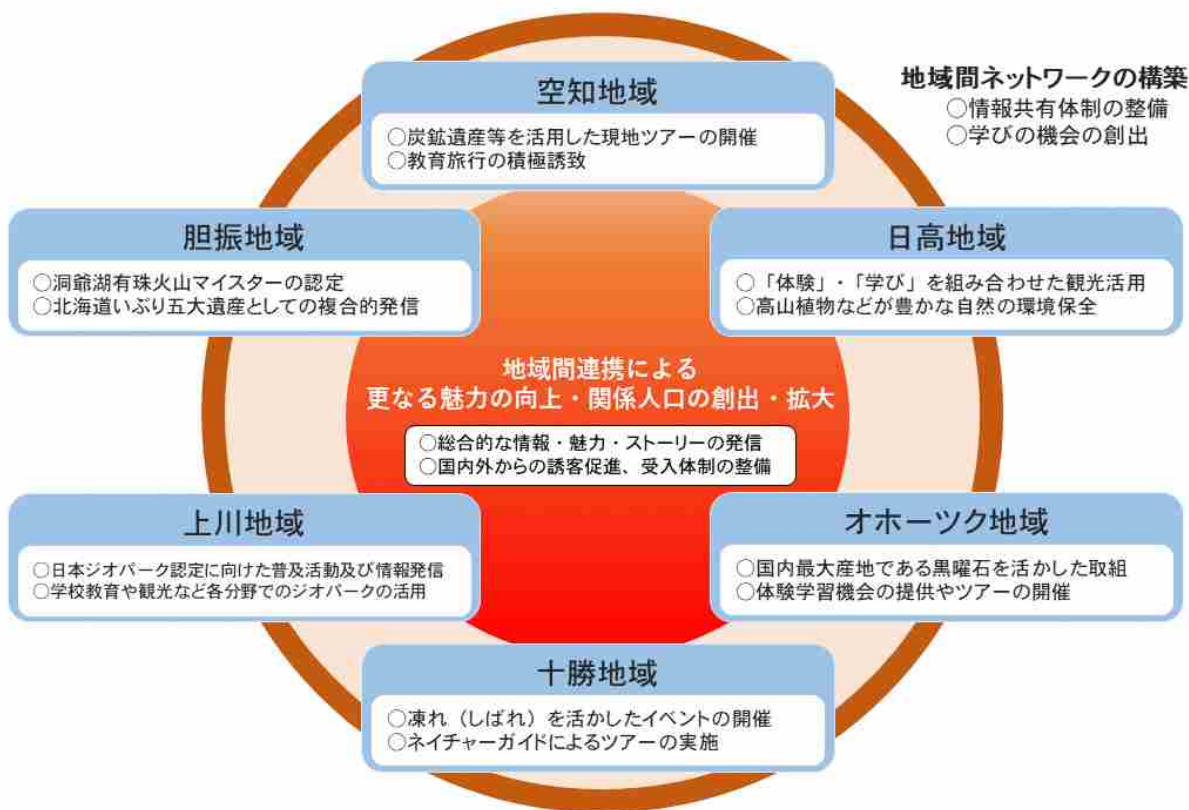
〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI※）〉

○ジオパーク構成市町への観光入込客数 （※R2年度の最新数値を参考に今後設定）

＜施策ごとの主な取組方向＞

- 各地域におけるジオパークを活かした特色ある取組の促進
 - ジオサイトや食の魅力発信、体験ツアーの実施
 - ジオの恵みやストーリー性を活かした関連商品・サービスの創出
 - ジオパークを題材とした環境教育・防災教育・ふるさと教育の推進
 - ジオパークを舞台としたスポーツ大会など特色あるイベントの開催
- 道内ジオパーク間のネットワークの構築
 - 道、関係市町村、企業、NPO等の情報共有体制の整備
 - ジオパークに携わる多様な主体の学びの機会の創出

- 道内ジオパークの連携による地域の魅力発信・関係人口の創出・拡大
 - 道内ジオパークに係る総合的な情報発信
 - 歴史や文化をまとめた北海道のジオストーリーの発信
 - 北海道のジオストーリーを活用した道内ジオパーク周遊のしかけ作り
 - 国内外からの誘客促進とガイドや団体の育成等の受入体制の整備促進



関連する主な基盤整備

- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
 - ・観光拠点へのアクセス道路の整備

未来技術の導入などによる産業振興・担い手確保プロジェクト

【推進エリア】空知地域

【主な実施主体】国、道、市町、民間、NPO

目的

管内産業の持続的な発展に向けては、基幹産業である農業分野などで、「北海道 Society5.0 推進計画」の中でも示されている ICT 等の先進技術の導入を積極的に進め、生産性向上や担い手の育成・確保を図るほか、空知産農産物のブランド化を推進していきます。

併せて、地域特性を活かした企業・研究機関等の誘致促進やものづくり産業人材の確保・定着を進めながら、さらなる産業の振興に取り組みます。

施策展開

- 【施策】
- ICTの活用などスマート農業の推進による農業生産力の強化
 - 農産物ブランド化の推進、農産物をベースにした加工品づくりなど付加価値向上及び国内外への販路開拓の促進
 - 地域の特性を活かした企業や研究機関等の誘致に向けた取組の促進
 - 仕事と生活情報の一体的な発信などによるものづくり産業人材の確保・定着に向けた取組

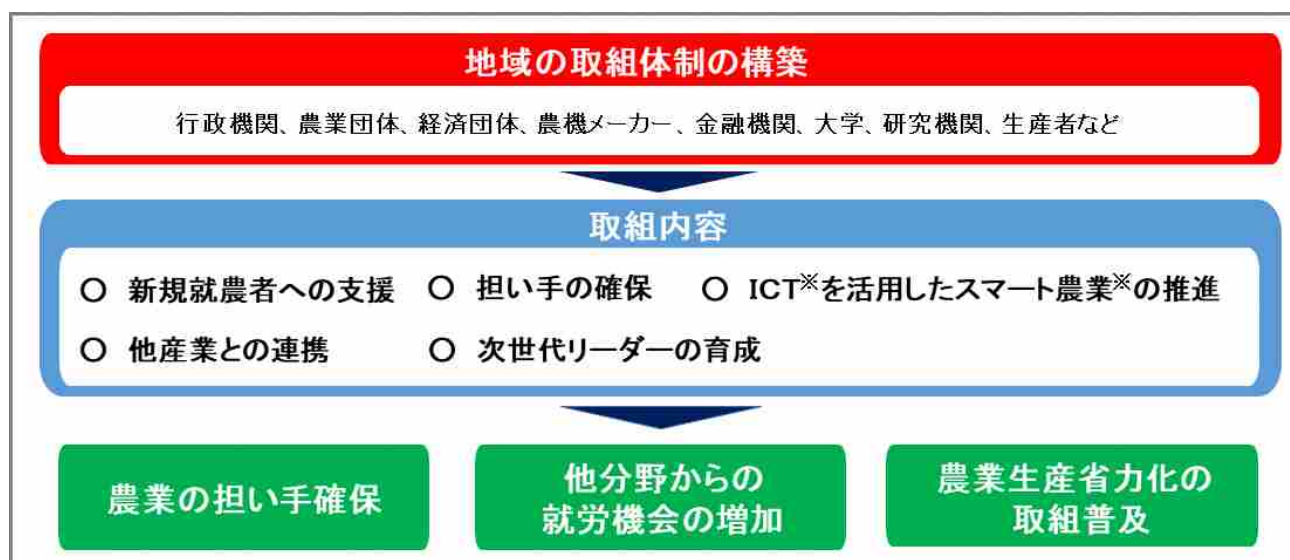
〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI※）〉

- | | |
|---------------|---------------------------------|
| ○空知の耕作面積の維持 | 113,600ha (R2) → 113,600ha (R7) |
| ○新規高卒者管内企業就職率 | ※今後、最新の数値を用いて設定 |

＜施策ごとの主な取組方向＞

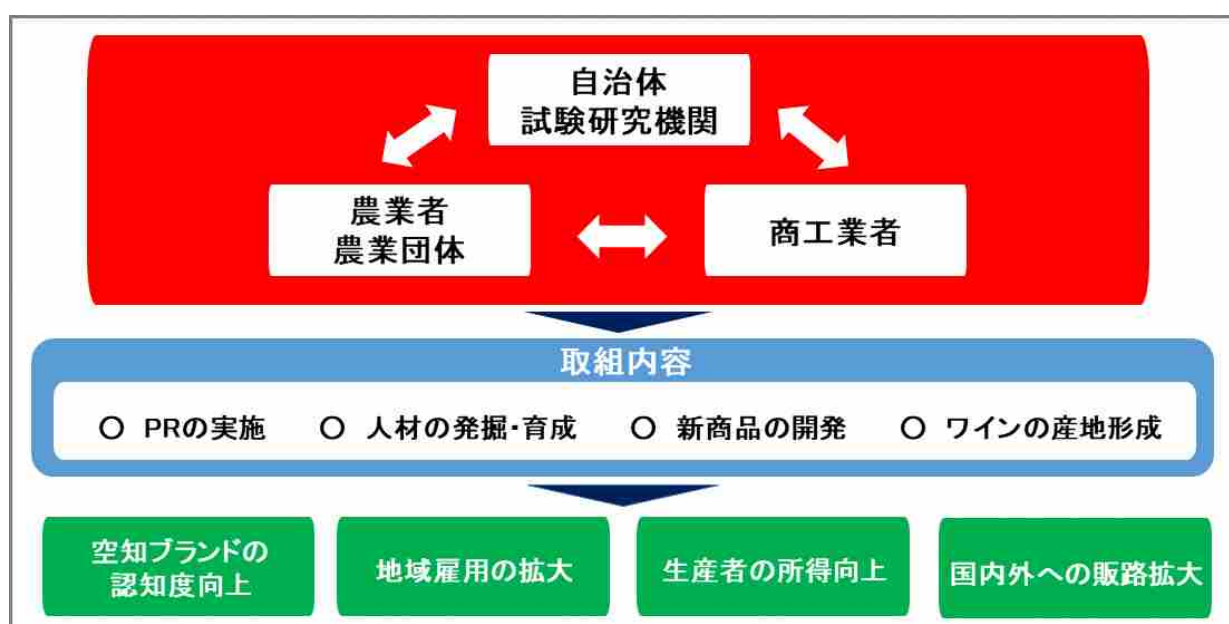
■ ICTの活用などスマート農業の推進による農業生産力の強化

- 水稻低コスト・省力化栽培技術の普及や、ICT※の活用に向けた実証試験などによるスマート農業※の普及・促進
- 野菜、果樹、花など地域の特産品の生産維持に向けた取組の検討
- 農業生産法人化や新規就農者・後継者などの育成・確保に向けた取組の促進
- 地域に根ざした食育※の推進による次世代リーダーの育成
- 障がいのある方の農業就労の場の確保に向けた農福連携の取組の推進



■ 農産物ブランド化の推進、農産物をベースにした加工品づくりと付加価値向上及び国内外への販路開拓の促進

- 米をはじめ野菜、花などの空知産農産物や加工品のブランド化、販路拡大に向けた情報発信やPR活動の実施
- 6次産業化※、農商工連携※による付加価値の高い商品開発や人材育成への支援
- 醸造用ぶどうの生産拡大と良質なワインづくりへの支援による産地形成
- 輸出などによる販路開拓の促進

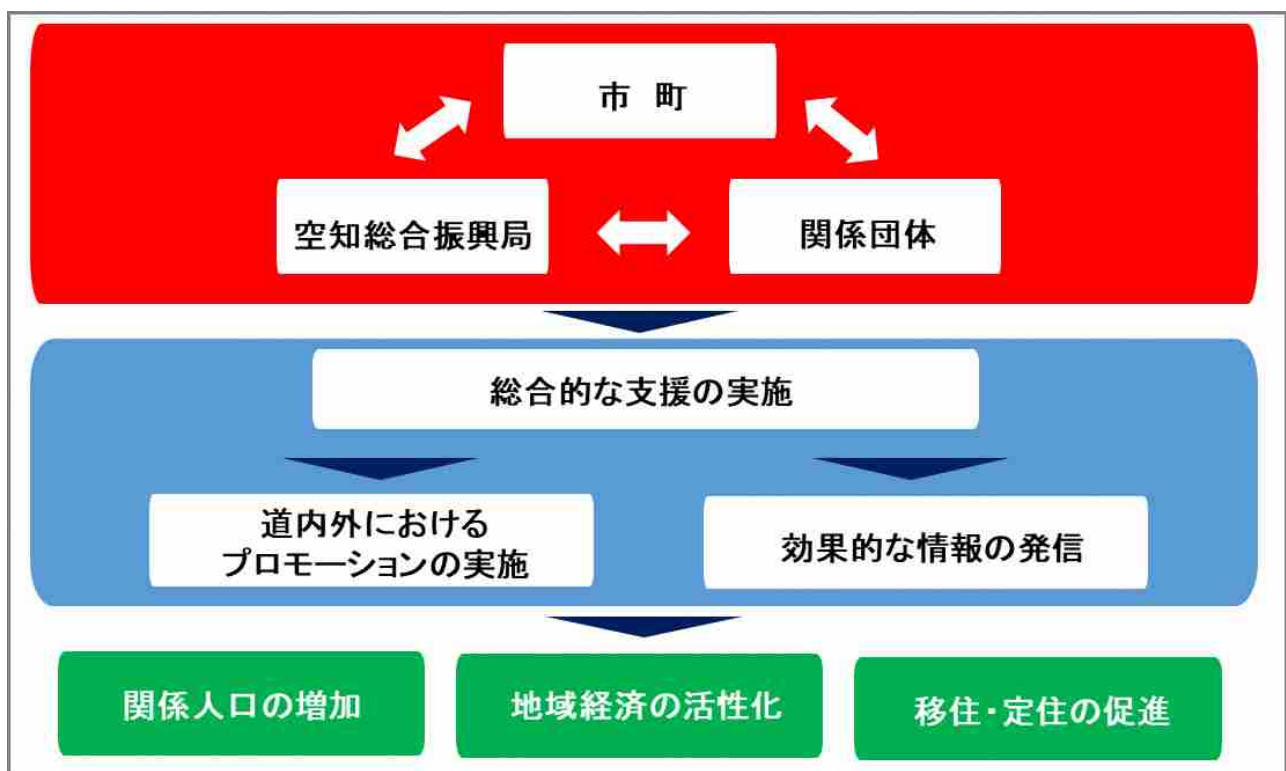


■ 地域の特性を活かした企業や研究機関等の誘致に向けた取組の促進

- 関係団体と連携し、雪氷冷熱や良質な農産物など地域特性を活かした企業や、試験研究機関等の誘致促進並びに農作物の高付加価値化など、貯蔵機能の向上に向けた取組の促進
- 「ゼロカーボン北海道」の実現に向け、木質バイオマスをはじめとした再生可能エネルギーの導入など脱炭素化の取組の促進
- 都市圏から管内への人材誘致・定着に向けた取組の促進
- 地元の新規学卒者など若者を中心とした人材の確保・定着
- ワーケーションやテレワークなど多様で柔軟な働き方への受入体制の確保



- 仕事と生活情報の一体的な発信などによるものづくり産業人材の確保・定着に向けた取組
- 都市圏から管内への人材誘致・定着に向けた取組の促進（再掲）
 - 移住・定住に向けた、地域の「しごと」「住まい」「暮らし」に関する団体との情報共有と一体的な情報発信及び移住相談・体験の促進
 - 移住者向けの住環境や子育て支援などの受入体制の充実
 - 地元の新規学卒者など若者を中心とした人材の確保・定着（再掲）
 - 障がいのある方の農業就労の場の確保に向けた農福連携の取組の推進（再掲）
 - ワーケーションやテレワークなど多様で柔軟な働き方への受入体制の確保（再掲）



関連する主な基盤整備

- 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備
 - ・農業用排水施設の整備推進
 - ・区画整理や暗渠排水、客土等の農用地の整備推進
- 農地及び農業用施設の機能回復や災害を回避するための施設の整備
 - ・農地や農業用施設の機能回復の整備推進

- ・農業用ため池の地震対策整備及び耐震診断の支援
- 農産物流通の合理化などのための農道の整備
- 高規格道路の整備
- 物流ネットワーク形成のための道路網の整備
 - ・高規格道路と一体となった道路網の整備推進
 - ・空港、港湾などの物流拠点へのアクセス道路の整備推進

地域の歴史や資源を活かした空知の魅力発信プロジェクト

【推進エリア】空知地域

【主な実施主体】国、道、市町、民間、試験研究機関

目的

空知地域は、日本遺産「炭鉄港」をはじめ、ワインや日本酒、花など空知ならではの地域資源を有し、近年では、美しい田園風景を活かしたサイクルツーリズムなども実施されています。

こうした地域資源を引き続き活用して、魅力の積極的な発信や食と観光の振興を図り、北海道ブランドの強化や国内外との人と物の流れの創出を推進します。

施策展開

- 【施策】
- 道内外へのPRによる交流の促進
 - 豊かな地域資源や地域に根ざした食の魅力を活かした観光の振興
 - 魅力ある地域資源の活用や効果的な情報発信などによる関係人口の創出・拡大や道内外からの誘客促進

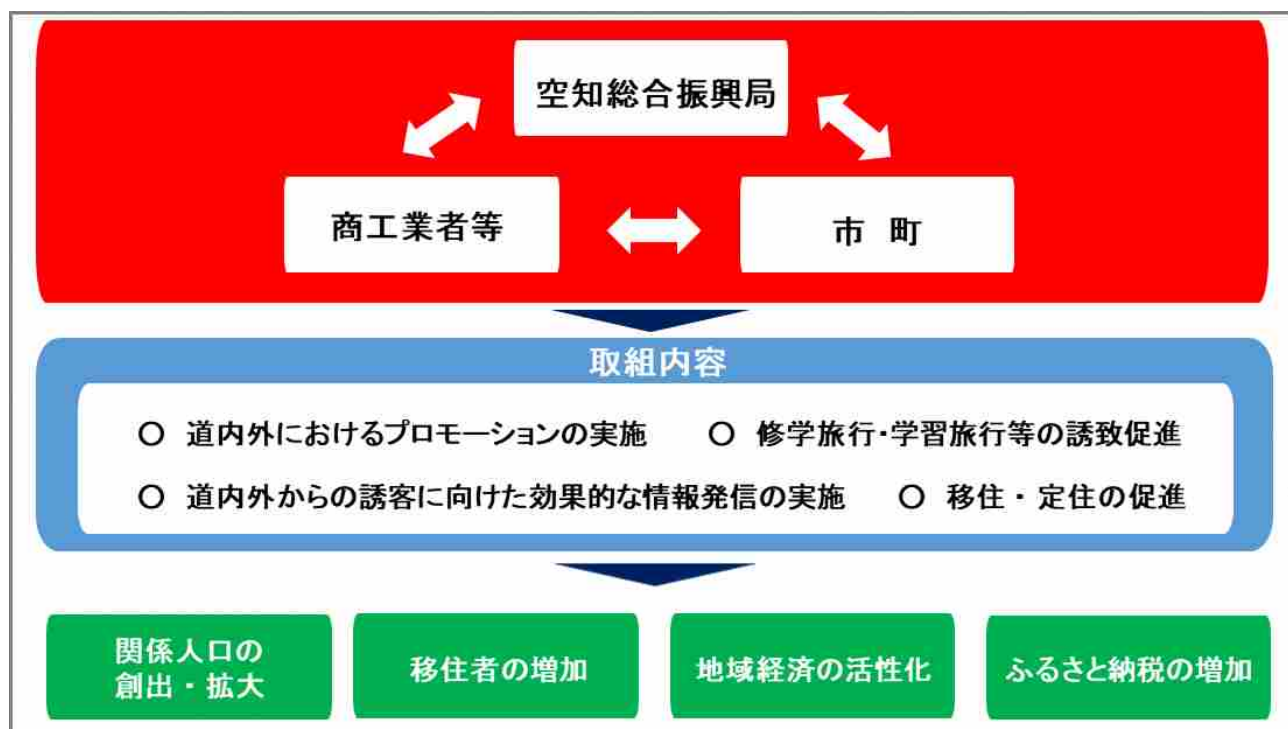
〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI※）〉（今後設定）

- 「そらち・デ・ビュー」公式SNSのフォロワー数 6,522人(R2) → 14,500人(R7)
- 管内への観光入込客数 1,232万人(R1) → 1,278万人(R6)
- 移住相談件数 ※今後、最新の数値を用いて設定

＜施策ごとの主な取組方向＞

■ 道内外へのPRによる交流の促進

- 北海道空知地域創生協議会※による「空知」の知名度向上に向けた道内外における戦略的な情報発信
- 農村ツーリズムや産業観光などの強みを活かした修学旅行・学習旅行等の誘致促進
- メディアやSNS等を活用した効果的な情報発信などによる関係人口の創出・拡大や道内外からの誘客促進
- 米をはじめ野菜、花などの空知産農産物、加工品のブランド化、販路拡大に向けた情報発信やPR活動の実施（再掲）
- 都心部での感染症リスクに対する回避や田園回帰などの志向の高まりを踏まえ、地域の魅力を活かしたライフスタイルの発信などによる移住・定住の促進
- ワーケーションやテレワークなど多様で柔軟な働き方への受入体制の確保（再掲）
- 都市圏からの地理的優位性を活かしたマイクロツーリズムの推進

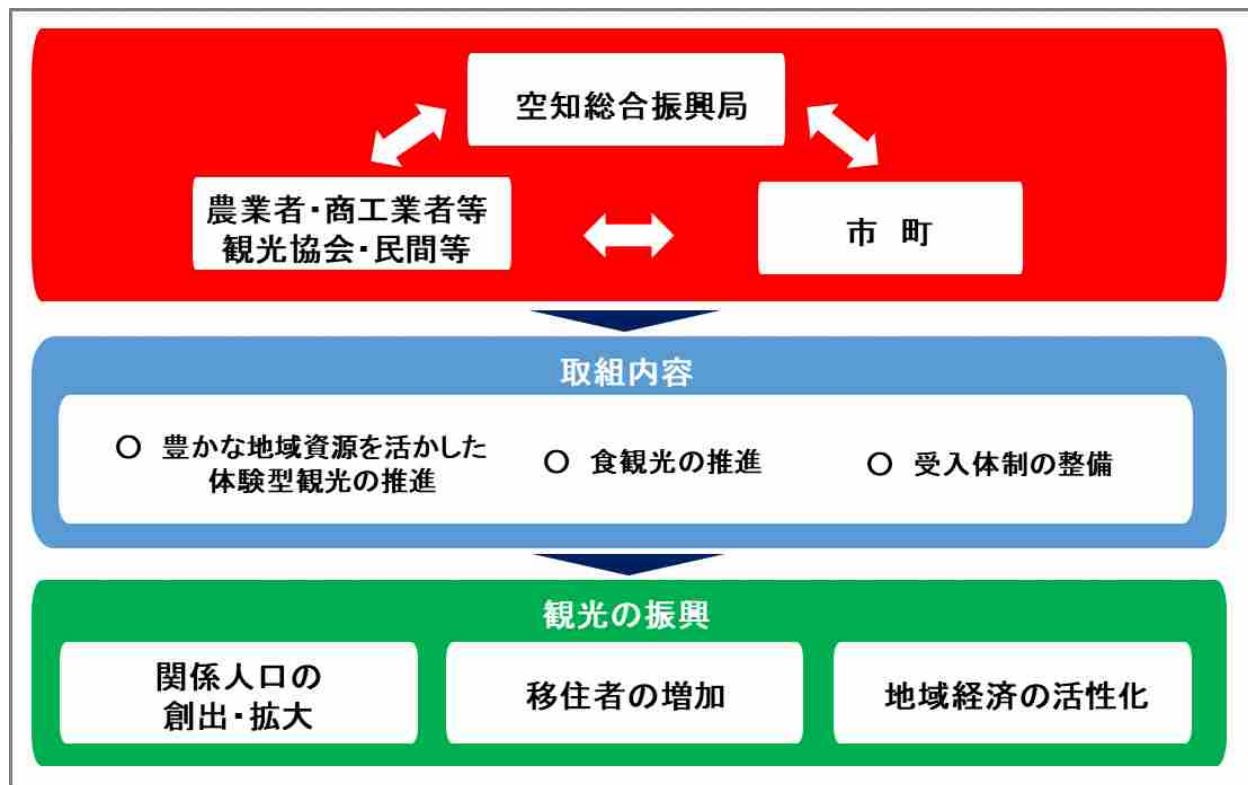


■ 豊かな地域資源や地域に根ざした食の魅力を活かした観光の振興

- 空知産ワインや日本酒等に合う料理など地元食材を活用した食の魅力づくり
- 地場農産物や炭鉱グルメなど地域に根ざした食の魅力を活かした食観光の推進
- 都市圏からの地理的優位性を活かしたマイクロツーリズムの推進（再掲）
- 交通拠点と観光拠点を結ぶ交通ネットワークの充実にに向けた取組の促進
- 感染症対策にも配慮した地域における観光地づくりの推進や外国人観光客の受入体制の整備
- サイクルツーリズムなどの地域資源を活かした体験型観光の推進
- 農村ツーリズムや産業観光などの強みを活かした修学旅行・学習旅行等の誘致促進（再掲）

■ 魅力ある地域資源の活用や効果的な情報発信などによる関係人口の創出・拡大や道内外からの誘客促進

- 北海道空知地域創生協議会※による「空知」の知名度向上に向けた道内外における戦略的な情報発信（再掲）
- 移住・定住に向けた、地域の「しごと」「住まい」「暮らし」に関する団体との情報共有と一体的な情報発信及び移住相談・体験の促進（再掲）
- ワインをはじめ、炭鉱遺産や花などの豊かな地域資源を活かした誘客の促進
- メディアやSNS等を活用した効果的な情報発信などによる関係人口の創出・拡大や道内外からの誘客促進（再掲）
- ワーケーションやテレワークなど多様で柔軟な働き方への受入体制の確保（再掲）
- 都市圏からの地理的優位性を活かしたマイクロツーリズムの推進（再掲）



関連する主な基盤整備

- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
 - ・ 観光拠点へのアクセス道路の整備推進
 - ・ 自転車道や案内標識の整備推進
 - ・ W i - F i ※スポットの整備促進

空知と多様な形で関わりを持つ人材創出プロジェクト

【推進エリア】空知地域

【主な実施主体】国、道、市町、民間、NPO

目的

道内の中でも、特に厳しい人口減少が続く空知地域において、将来にわたって住み続けられるよう、オール空知の連携を深めながら、地域医療や福祉の充実、生活交通の維持・確保をはじめとした安心で住み良い暮らしの形成や新規高卒者の地元就職などの雇用対策を進めるほか、管内自治体・民間企業と連携し、地域住民のシビックプライド醸成を図りながら次世代リーダーを育成するとともに、地域の「しごと」「住まい」「暮らし」に関する一体的な情報発信などによる移住・定住対策や、ワーケーションなど多様で柔軟な働き方の受入体制の確保など、関係人口の創出・拡大を図ります。

施策展開

- 【施策】
- 「北海道空知地域創生協議会」による総合的なプロモーションの実施
 - 安心で住み良いまちづくりに向けた取組の推進
 - 新規高卒者の地元就職の促進などの雇用対策
 - 地元住民のシビックプライドの醸成に向けた取組の推進
 - 「空知を育てる」次世代リーダーの育成

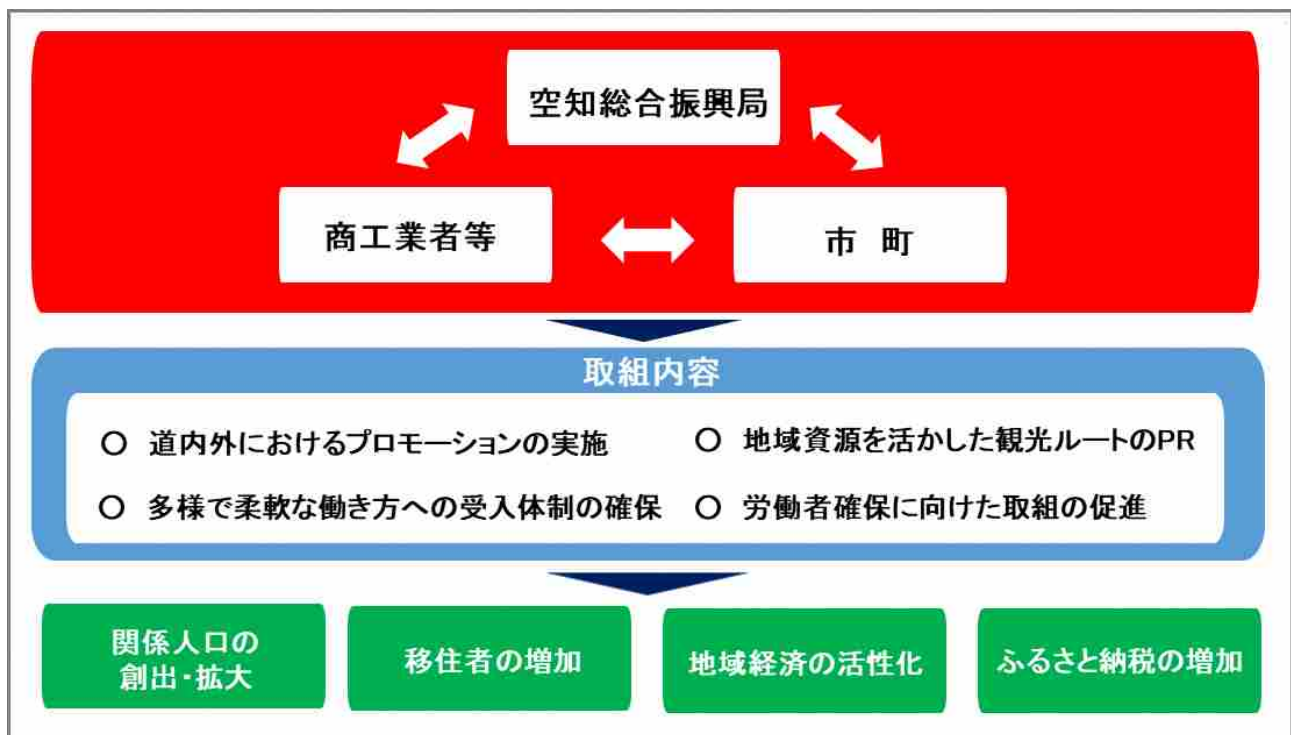
〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI※）〉

- | | |
|-------------------|---------------------|
| ○新規高卒者管内企業就職率（再掲） | ※今後、最新の数値を用いて設定 |
| ○移住相談件数（再掲） | ※今後、最新の数値を用いて設定 |
| ○認定子ども園設置数 | 20カ所(R3) → 22カ所(R7) |

＜施策ごとの主な取組方向＞

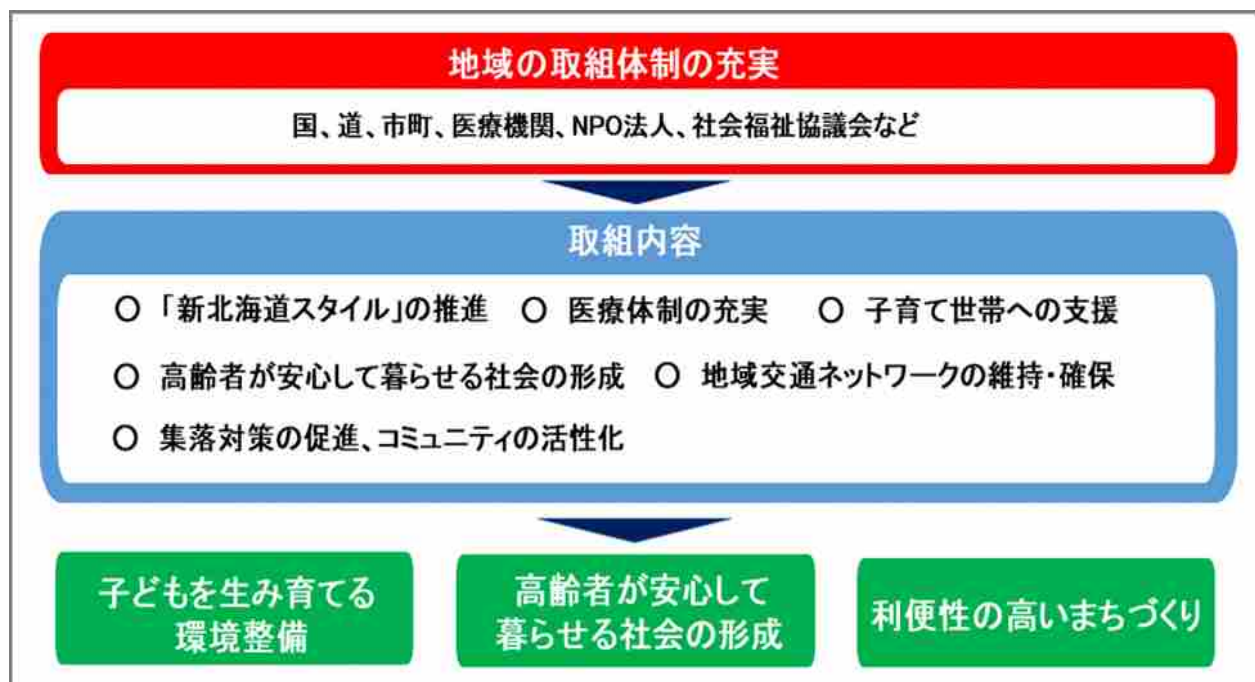
■ 「北海道空知地域創生協議会」による総合的なプロモーションの実施

- 北海道空知地域創生協議会※による「空知」の知名度向上に向けた道内外における戦略的な情報発信（再掲）
- 移住・定住に向けた、地域の「しごと」「住まい」「暮らし」に係る団体との情報共有と一体的な情報発信及び移住相談・体験の促進（再掲）
- ワーケーションやテレワークなど多様で柔軟な働き方への受入体制の確保（再掲）



■ 安心して住み良いまちづくりに向けた取組の推進

- 新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、地域住民と事業者が連携した「新北海道スタイル」の推進
- 広域的な感染症治療も考慮した地域における医療連携や救急医療体制の充実
- 安心して子どもを生み育てることができる環境づくりの推進
- 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の形成
- 関係機関の連携による防災体制の強化
- 地域の実情に応じた地域交通ネットワークの維持・確保のための取組の促進
- 集落対策の促進、コミュニティの活性化

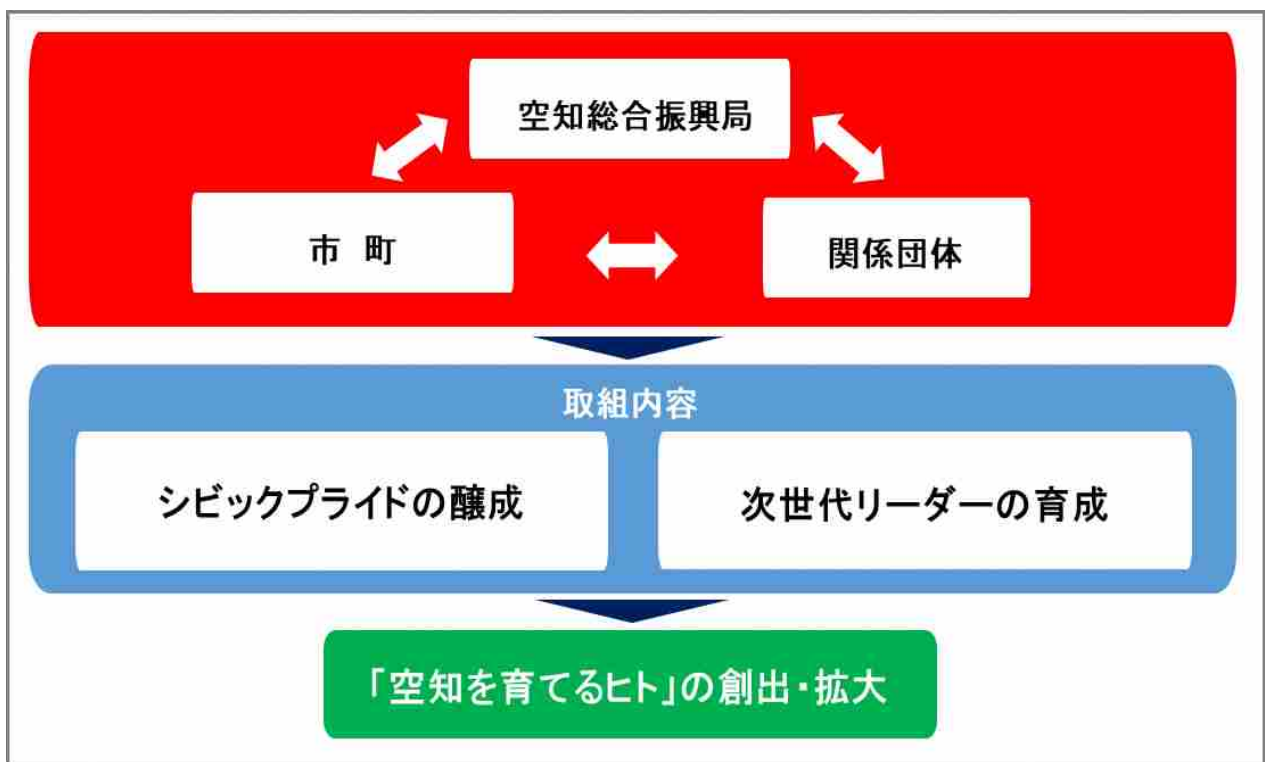


■ 新規高卒者の地元就職の促進による雇用対策

- 地元の新規学卒者など若者を中心とした人材の確保・定着（再掲）
- 都市圏から管内への人材誘致・定着に向けた取組の促進（再掲）
- 移住・定住に向けた、地域の「しごと」「住まい」「暮らし」に関する団体との情報共有と一体的な情報発信及び移住相談・体験の促進（再掲）
- 障がいのある方の農業就労の場の確保に向けた農福連携の取組の推進（再掲）
- ワーケーションやテレワークなど多様で柔軟な働き方への受入体制の確保（再掲）

■ 地元住民のシビックプライド醸成及び「空知を育てる」次世代リーダーの育成

- 振興局と管内自治体、民間企業などと連携し、シビックプライドを醸成するなど「関係人口」の創出・拡大に向けた取組の推進
- 地域に根ざした食育*の推進による次世代リーダーの育成（再掲）
- 「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的な推進や地域課題探求型の学習体験を通じてまちづくりを牽引する地学協働体制の構築



関連する主な基盤整備

- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備（再掲）
 - ・観光拠点へのアクセス道路の整備推進
 - ・自転車道や案内標識の整備推進
 - ・Wi-Fi*スポットの整備促進
- 災害に備えた安全な道路交通環境の整備
 - ・緊急輸送道路等の整備推進